

「学校教育診断」と「わが家の家庭教育診断」の結果から

森山 康浩

要約

子どもと保護者だけでなく地域住民の願いにも応える学校づくりが期待される時代である。そこで池田市立伏尾台小学校では、学校運営について自己診断するに止まらず、教育方針や教育計画を外部に公開し、その成果や課題について、子どもと保護者だけでなく地域住民からも「学校教育診断」を受けて改善してきた。さらにその結果をもとに情報を交換し合って、それぞれが担う役割を明らかにし、協同子育てに生かしてきた。保護者にも「わが家の家庭教育診断」を通して家庭教育について考えてもらった。

一 まず「開かれた学級づくり」から

私は毎月一度、校区の住民に、学校づくりに寄せる校長としての考えや、時季の話題、住民への問題提起などを書いた「校長室からの手紙」を配布してきた。二〇〇六年二月号の書き出しは次のような文面である。

校舎がオープン形式の学校を見学したことがある。教室

と教室の壁はあるのだが、教室と廊下の壁がないのだ。隣の学級の声が授業の邪魔になるのでは、と心配したが、先生も子どもも穏やかな声でしっとり授業をしていた。壁を取り払うと心も開くのであろう。

私が勤めてきた池田市立伏尾台小学校は、どの教室も壁で区切られ閉じられている。他人からの干渉を拒み、学級王国をつくろうとする教師には、都合のいい構造である。私も若輩のころは自らの学級経営が最高だと思

上がり、王国を築いたものだった。すると、いわゆる学級崩壊が起こっていてもなかなか気づかれず、学級が孤立し、王国Ⅱ密室が並ぶだけの寒々しい学校になってしまふ。

私がこの学校に校長として赴任した一九九七年、大事件が起こった。神戸市須磨区で自らを「酒鬼薔薇聖斗」と名乗る少年が児童を殺傷したとされるあの痛ましい事件である。「彼」は、自分自身を透明な存在にしたのは小学校・中学校の義務教育だと語った。学校では誰も自分を見つけてくれなかったと言うのである。決してよそ事とは思えなかった。あの校区の雰囲気は本校の校区のそれとたいへんよく似ていた。あそこで起こったことは本校でも起こりうる。

本校の子どもから第二の酒鬼薔薇聖斗を出さないために、一人の子どもを大勢の教師で見する方法はないだろうか」と議論し、一九九八年度から「交換授業・専科制」を始めた。「教科担任制」とは違って、同じ学年、あるいは隣接した学年で教師同士がお互いの得意な教科を交換していくのである。そうすると、専科やティームティーチング担当も含めて一つの学級に六人、七人の教師が入ることになる。悩んでいる子どもや少し様子がおかしいなどと思う子どもに対して、担任の教師のみではなく大勢

の教師の目で見るができる。一人の子どものことを六人、七人で議論できるのである。隣の学級の教師が自分の学級に来て授業を行い、また自分自身も隣の学級に行き授業を行う。さらに学年合同授業・分割授業・ティームティーチング等を組み合わせたりして、日々多くの教師がそれぞれの子どもに関わり、子ども様子を語り合うようにした。こうして徐々に学級間の壁が取り払われていくようになった。

二 そこには「開かれた学校づくり」の土壌があった

一九八〇年創立の伏尾台小学校は、開校時から「地域のコミュニティセンターとしての学校づくり」「開かれた学校づくり」を合言葉にしてきた。私も当時の本校の一職員だったので、その頃の雰囲気をよく知っている。PTAや地域住民はやつと自分たちの町に学校ができたということ、学校に寄せる思いは大きく、学校を活用して様々な行事や活動を展開してきた。学校を会場にした町あげでの「地域と学校を結ぶ文化祭」、陶芸・バスケットボールなど特技を持つ住民を講師に迎えた子どもたちの自由クラブ「サタデー・フレンズ」、校区の福祉

施設や事業所や老人会等と交流をカリキュラム化した「総合学習」、中学校区の一中学校と二小学校で交換授業・協同研究を行う「いきいきスクール」などがその例だ。近年各地で取り組まれている「開かれた学校づくり」は、四半世紀も前から実践していたことで、今も取り組むべきテーマとして定着している。

これが「学校教育診断」や「学校協議会」（校長の求めに応じて、保護者・地域住民が学校改善のために意見交換や提言を行う組織）の実施にもおおいに役に立つ結果となった。

三 勇気ある決断―「診断」結果の全面公開

「交換授業・専科制」が軌道に乗った頃、大阪府立学校で「学校教育自己診断」が実施される動きがあり、近いうちに府下公立小・中学校でも行われることは予想がついた。

今日の社会は、個人のプライバシーは守りながらも情報公開・説明責任・実績公開などが求められる時代である。公立学校も例外ではない。いずれ「診断」を実施することになるのなら、今まで「開かれた学校づくり」に取り組んできた意義を生かして、保護者や子ども

を直接聞く形で調査し、その結果は公開することにしようと思ひかけた。とはいえ、自由記述欄にはどんな意見が返ってくるかわからないし、調査が本校の教育を否定するような結果になってしまった場合にはどうすればいいのか、本当に大丈夫だろうかと不安もあった。しかし、「診断」を実施しないからといって、保護者が、井戸端会議で話題にする教師や学校への批判がなくなるものではない。反対に陰にこもってどこかで爆発する時こそ、学校にとって取り返しのないような事態になるのではないか。それなら、普段から保護者や子どもとの率直な声を聞いておくことの方が学校運営の参考にできるはずだ、と話し合いは進んだ。最後には、教師からやりましょうという声があがった。この決断は教師たちにとって勇気がいるものだった。

こうしてアンケート調査「学校教育診断」を三年間隔で行ってきた。第一回は一九九九年、第二回は二〇〇二年度、第三回は二〇〇五年度に実施した。

一回目の「診断」は、多くの診断項目で予想以上の高評価をもらったが、学校に一言二言言いたいと思う保護者は相当数あり、自由記述欄に事細かく書いて提出されているものもあった。なかには、心配していたように、特定の教師のことを指しているとわかるような批判文も

あった。これには当の教師も公開にずいぶん二の足を踏んでいた。しかし、学校として「交換授業・専科制」を行い、大勢の教師で子どもたちを見ていたのであって、一学級、一教師を問題にしているのではない。一人の教師の資質向上は学校全体が取り組むべきことだから、公開していこうと全面的な公開に踏み切った。この結果、逆に保護者の方からよくぞここまで公開してくれたと、良い意味での更なる評価をもらうことができた。自由記述欄には他にも「義務教育の国庫負担制度は守るべき」や「三五人学級にしてください」といった国や府県レベルの学校制度に関わるようなものから、本校のティームティーチングや学級指導のこと、あるいは「学校のお便りは上質の紙を使いすぎだ、更紙でいい」といった細かい意見まであった

この結果をもとにして、教育委員会や行政に要請すべきこと、学校運営に関わること、学年や学級の教師が改善すること、教職員それぞれが果たすべき責任、といった具合に分類し、次の三年間の努力目標とした。そして、達成できたことから順次学校便りや「校長室からの手紙」に載せることによって、確かに学校が子どもや保護者の意見・提言に応えているのだという誠意を示した。

四 「学校教育診断」と「学校協議会」をつないで

第一回「診断」が終わった翌年、大阪府で「学校協議会」発足の動きがあり、府立学校の一部で試験実施が行われていた。府下公立小・中学校でもいずれ実施される。それなら本校も学校協議会スタートの年から本格実施をしようということにした。最初の学校協議会では、第一回学校教育診断の結果をもとに本校の姿勢について、協議委員に客観的な視点から語ってもらい、学校に対して様々な提言をもらった。教職員は「自己」診断として行っているだけでは気付かないことにも目が向くようになった。

ちょうどこの年、二〇〇〇年に、あの大阪教育大学附属池田小学校の児童殺傷事件が起こり、今まであまり重要視されてこなかった安全対策問題がにわかにクローズアップされた。もちろん学校協議会でも話題にした。学校の勉強も子どもの安全もどちらも重要だから、PTAと学校だけでなく地域住民も含め、校区挙げての安全対策が必要だとの提言をもらった。私はそれをもとに地域の各種団体に行った。

その結果、早速具体的な動きをしてみようことができた。例えば、青少年指導員は校区安全地図を作って危険箇所を関係者に知らせる。更生女性会は毎朝校門前で子どもたちに声をかけをする。敬老会は散歩や買い物時には名札をつけて子どもたちを見守る。防災委員会は「防犯・防災委員会」と名称変更して定期的にパトロールする。校区の商店は店の車にステッカーを付けて配達時にパトロールする。このような地域住民の尽力は、すぐに私の「校長室からの手紙」にしたためて発信した。

五 第二回「診断」は惨憺たる結果

さて、二〇〇二年の第二回「診断」では、保護者からは「三年間を通して学校は努力している」と、そこそこの評価をもらえたのだが、子どもからの評価は多くの調査項目で極端に落ち込んだ。「学校行事や給食は楽しい」の項目は評価が高かったのだが、肝心の学習面では授業の内容がわかりにくいという。学校生活面でも「先生はもっと子どもの声を聞いてほしい」という。このように子どもからの痛烈な回答を受け、私たちは改めて子どもの心をつかみ、授業をしっかりやらなければいけないと反省した。もちろん第二回「診断」の結果も学校協議会に

諮り、保護者にも冊子にして配布した。

この第二回「診断」では地域住民にも学校評価をお願いした。全校区に配布している「校長室からの手紙」の一頁に調査用紙を印刷し、回答を寄せてもらった。回収できたのは残念ながら四八通に止まり、これをもって住民の意見の反映だといえなかったが、自由記述欄には反省すべきことや励まされることなど様々な意見があった。

六 課題を明確にして取り組み成果あり！

第二回「診断」で「授業」についての子どもたちからの評価があまりにも低かったので、その後の三年間は、授業の身や方法を改善することを最重点課題にした。この授業改善に取り組む私たちの様子を評価してもらうと、保護者や子どもたちから授業評価を受けるシステムを構築した。それが、二〇〇四年度から二年間、府の指定を受けて行った「授業評価システム」研究である。そうして、二〇〇五年度に第三回目の「学校教育診断」を実施した。今回は特に、前回惨憺たる結果であった子どもからの評価がどうなったか、気になるところであった。

結果を見ると、「学校へ行くのが楽しい」は前回の六五％から八一％になった。また、「先生は私たちの意見をよく聞いてくれる」は、前回五割を切っていたのが、今回は七九％。最も大切な「授業がわかりやすい」は前回の四三％が七一％と、喜ばしい結果が出た。嬉しいことに、他にも「授業の工夫をしている」や「先生と信頼関係が出来てきた」など、大事にしてきた項目が大幅にアップした。

自由記述欄に書かれた子どもたちの意見のなかには、例えば「いきなり叱るのではなくこの子も何か理由があったのかなあとか、もう少し考えて叱ってほしい」といった耳の痛いこともあり、教師も反省しきりであった。回答用紙はクラスごとに回収しているので、子どもからの意見は担任の教師が肝に銘じ、改めて自分の学級指導を反省し、子どもたちへのケアを忘れないように確認し合った。

なお、保護者の自由記述欄には、今日の全国的な状況を反映して、学力向上や生活指導等について厳しい意見もあったが、ほぼすべての調査項目で第二回「診断」よりもさらに高い評価をもらったことも、私たちの取り組みが間違いはなかったことの証であると思っ

七 「わが家の家庭教育診断」も加えて 今後にかかす

なお、第三回は「学校教育診断」と併せて「わが家の家庭教育診断」を同時に行った。昨今、伏見台小学校でも複雑な事情を抱える家庭が増えてきて、落ち着いて家庭学習などできないような状況の子どもが少なくない。家庭に問題を抱えて登校してくる子どもには、学習意欲を持たず、学校や学級で子ども同士の関係も紡ぎにくい子も見られる。一人ひとりの子どもが自尊心を持ち、学級の子どもたちが共に高まり合える関係を築き、安心できる自分の居場所が確保できると、学習効果とは相乗し合っていることを私たちはこの三年間実感してきた。そこで、保護者には、学校への批判・注文だけでなく自身の家庭教育も振り返ってほしい、家庭で子どもが自学自習力を育てるような環境を整えてほしい、学校からの要望も聞いて建設的な提言をし、共同子育てに参画してほしい、と考えた。

「わが家の家庭教育診断」実施にあたって、学校協議会でも協議した。「男親と女親、外で働いている親と家にいる親とでは考え方が違うかもしれない」とい

我が家の家庭教育診断 集計		A あてはまる B ややあてはまる C ややあてはまらない D あてはまらない					
		A	B	C	D	無答	
(回答：母親 178名，父親 138名，その他2名，計 318名)		0	20	40	60	80	100
1	早寝早起きなど、規則正しい生活をするように言っている。	母					
2	朝食は毎日しっかり食べるように言っている。	母					
3	食器の片づけなど、自分の事は自分でするように言っている。	母					
4	テレビを見る時間やゲームをする時間を決めている。	母					
5	約束したことや自分の行動に責任を持つように言っている。	母					
6	相手の立場を尊重し、自分と違う考え方も大事にするように言っている。	母					
7	宿題は、必ずするように言っている。	母					
8	むずかしい問題でも、投げ出さないでじっくり考えるように言っている。	母					
9	ふだんから時間を決めて学習するように言っている。	母					
10	やりはじめたことは最後までやり遂げるように言っている。	母					
11	子どもに言うだけでなく、自ら手本を示すようにこころがけている。	母					
12	子どもの意見や判断を尊重して、できるだけ口出ししないようにしている。	母					
13	子どものよい所をできるだけ認めて自信を持たせるようにしている。	母					
14	将来の夢の実現のために、今どんなことをすることが大切なのかいっしょに考えるようにしている。	母					
15	興味・関心のあることを自分で調べたり、勉強したりするようすすめている。	母					
16	働くことの大切さや尊さをいっしょに考えるようにしている。	母					
17	自分の子どものころの夢や、その実現のために努力した話を聞かせたことがある。	母					
18	通知表「はばたき」を見て、子どもとこれからの目標について話をしている。	母					
19	子どもといっしょに本を読んだり、読んだ本の感想を話し合ったりしている。	母					
20	新聞に書かれていることについて、子どもとよく話しをする。	母					
21	子どもが小さいころから、家族いっしょに自然の中で遊んだり、活動したりする経験を積んでいる。	母					
22	子どもといっしょに、美術館や博物館に行ったことがある。	母					

		0	20	40	60	80	100
23	家族の誕生日など、家庭の行事をたいせつにしている。	母					
		父					
24	子どもに家庭の中の仕事で頼りにして任せている役割がある。	母					
		父					
25	学校や学年・学級からの通信や連絡にはいつも目を通すようにしている。	母					
		父					
26	授業参観にはできるだけ参加するようにしている。	母					
		父					
27	授業の手伝いをするボランティアとして参加したことがある。	母					
		父					
28	PTA 会議や学級懇談会で、学校・学年・学級への希望や意見を発言するようにしている。	母					
		父					
29	教育についてのテレビ番組や新聞・雑誌の記事に目を通すようにしている。	母					
		父					
30	教育に関する講演会などにはできるだけ参加するようにしている。	母					
		父					
31	子育てについて話し合える友人やご近所の人がある。	母					
		父					
32	近所の子どもにも気をつけて見守るようにしている。	母					
		父					
33	何か起こった時、安心して子どもを預けられる知人が近くにいる。	母					
		父					

う意見が出たので、家庭に父親用と母親用二枚ずつ配布して記入してもらった。集計結果では、父親と母親の考えは似ているものが多かったが、二五番目以降の項目に違いが表れているものが多かった。

また「わが家の家庭教育方針」を自由に書いてもらった。日ごろ学校に対して細かい注文をする保護者も、家では案外おらかに子どもを見ようとしていることがわかった。普段、親同士が集まっても、「わが家の家庭教育方針はこうだ」、などと話すことはめったにないというところで、「わが家の家庭教育診断」の結果を公表した後、「いろいろな家庭の方針があるんだなということが改めてわかった」と好評であった。

今回の「わが家の家庭教育診断」については、学校としての考察はせず結果だけの発表にしたが、これをもとに、それぞれの家庭でどんな子育てをしているのか、また学校への要望はどんなものなのか、相互に協力し合えることは何なのか、そういったことを見つけ出して、二〇〇六年度以降の伏尾台小学校の教育活動の貴重な資料にしていきたいと考えている。

児童集計 (回答：4・5・6年生 計139名)	Aあてはまる Bややあてはまる Cややあてはまらない Dあてはまらない					肯定回答 (A+B) %	
	A	B	C	D	無答	前回	今回
	0	20	40	60	80	100	
1 学校へ行くのが楽しい。						65	81
2 先生は、私たちの意見をよく聞いてくれる。						48	79
3 授業がわかりやすく楽しい。						43	71
4 担任の先生のほかにも、いろいろな先生の授業があるのは楽しい。						66	73
5 授業で実験・観察をしたり、学校外へ見学に行ったりすることが多い。						43	43
6 授業で自分の考えをまとめたり、発表をしたりすることがある。						58	69
7 先生は、教え方にいろいろな工夫をしている。						55	86
8 授業でわからないことについて先生に質問しやすい。						36	63
9 先生の授業の進め方について「ふりかえりカード」に書くのは、役立っていると思う。						—	58
10 授業で、よくコンピュータを使っている。						54	53
11 先生は、学習で自分が努力したことを認めている。						49	68
12 通知表「はばたき」の学習成績のつけ方はなっとくできる。						54	82
13 先生にはなんでも相談できる。						28	41
14 学級の先生の他にも、気軽に相談できる先生がいる。						34	42
15 先生は、ほかの人に知られたくない秘密を守ってくれる。						48	51
16 先生は、いじめなど、わたしたちが困っていることについて、よく対応してくれる。						56	78
17 授業を通して、大人になったときの仕事について考える機会がある。						36	45
18 授業などで、豊かな心や人の生き方について考えることがある。						45	57
19 学級会では意見を発表することが多い。						34	42
20 運動会や学習発表会や文化祭などの学校行事は楽しい。						88	91
21 児童会活動は楽しい。						66	74
22 クラブ活動は楽しい。						70	88
23 委員会の活動にすすんで参加している。						47	80
24 給食の時間は楽しくすごしている。						88	80
25 命の大切さや、社会ルールについて学ぶことが多い。						64	70
26 自分を大切にし、他の人への思いやりを学ぶことが多い。						62	68
27 世界の国々と環境やわたしたちのくらしの関係について学習することが多い。						72	67
28 英語の学習は役立つからあるほうがいいと思う。						—	88
29 校長先生の話はわかりやすい。						75	90
30 先生はきまりや約束ごとをよく守ってくれる。						47	80
31 地震や火災、不審な人が現れた時、どうしたらよいかを教えてもらっている。						77	84
32 学校で使う道具や器具がこわれた時、すぐに修理したりとりかえたりしてくれる。						51	65
33 ほかの学校の先生が、授業をよく見にくる。						18	21
34 家族や町の人々といっしょに学習や作業をすることがよくある。						25	26
35 授業やクラブ活動を通して、近くの学校と交流することがよくある。						32	26

は、肯定回答70%以上の項目。太数字は前回より20ポイント以上増えた項目。

※設問23は5・6年生のみ。

保護者集計 (計183家庭)	Aあてはまる Bややあてはまる Oややあてはまらない Dあてはまらない					肯定回答 (A+B)%	
	A	B	C	D	無答	前回	今回
	0	20	40	60	80	100	
1 学校は、学校のねらいを日々の教育活動を通してわかりやすく伝えている。						69	76
2 学校は、他校にない独自の教育活動を行っている。						77	73
3 学校は、授業以外に様々な経験ができる場を設けている。						85	86
4 学校は、保護者・地域の願いに応えている。						62	75
5 学校は、家庭への連絡や意思疎通を、積極的にきめ細かく行っている。						45	68
6 交換授業や専科の授業で、担任以外の先生の授業もあるのは意義がある。						92	91
7 子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている。						56	73
8 授業参観時の「今日の授業はどうでしたか」による評価は意義がある。						-	73
9 学習の内容や進捗等を、学級(学年)通信や懇談などによって、よく知ることができる。						57	77
10 通知表「はばたき」は、子どもの学力や達成度を適切に評価できるよう工夫されている。						41	66
11 先生は、子どもの能力や努力を適切・公平に評価している。						63	85
12 子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。						75	86
13 子どもは、自分の学級は楽しいと言っている。						76	87
14 子どもは、給食を楽しみにしている。						79	77
15 先生は、子どものことについての相談に適切に応じてくれる。						57	87
16 子どもは、心身の健康について、気軽に先生に相談できる。						62	79
17 先生は、子どものまちがった行動には厳しく指導してくれる。						71	86
18 先生は、子どもをよく理解してくれている。						62	81
19 学校は、いじめのない学級づくりに取り組んでいる。						56	70
20 学校は、自分の生き方を考え、豊かな心を持った子どもを育てようとしている。						63	79
21 運動会・学習発表会・文化祭等の行事は子どもが楽しんで参加できる工夫がされている。						78	89
22 児童会行事は活発である。						64	74
23 子どもは、積極的にクラブ活動に参加している。						52	62
24 学校は、子どもに生命を大切にする心や、社会ルールを守る態度を育てようとしている。						72	78
25 学校は、発達段階に応じて子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている。						72	72
26 学校は、環境・国際理解・福祉ボランティア等、新しい教育課題を子どもに学ぶ機会を設けている。						73	75
27 池田教育特区「英語活動」は意義がある。						-	80
28 先生は、すべての教育活動で、子どもの人権を尊重する姿勢で指導に当たっている。						58	72
29 地震・台風・不審者等の対応について、児童や保護者に行動マニュアルが知らされている。						84	79
30 学校の施設・設備は、学習環境面ではほぼ満足できる。						72	74
31 学校は、事故防止に配慮し、施設・設備の点検を行っている。						71	72
32 学校は、施設・設備を有効に利用している。						70	77
33 学校は、保護者が授業を参観する機会をよく設けている。						91	93
34 学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である。						80	81
35 学校では、子どもに関するプライバシーが守られている。						75	77
36 学校では、保護者や地域の人々と話をする機会を多くもっている。						66	80
37 学校では、PTA活動が活発である。						77	77

※設問7,9,11,12,13,14,15,16,17,18は複数回答あり。設問23は4・5・6年生のみ。

は、肯定回答70%以上の項目。太数字は前回より20ポイント以上増えた項目。

教職員集計 (計25名)	Aあてはまる Bややあてはまる ○ややあてはまらない Dあてはまらない					肯定回答 (A+B) %	
	A	B	C	D	無答	前回	今回
	0	20	40	60	80	100	
1 この学校の教育活動には、他の学校にない特色がある。						100	80
2 学校は、教育活動全般について、子どもや保護者の願いによく応えている。						88	88
3 交換授業・専科制は意義がある。						93	84
4 T・T、少人数指導の導入など、指導方法の工夫・改善に努めている。						93	88
5 グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている。						88	80
6 学習が遅れがちな児童への対策を、全校的課題として取り組んでいる。						31	60
7 観点別評価など評価の在り方について、学年や教科などで話し合う機会がよくある。						56	56
8 「授業評価システム」で授業の要点や組み立てを考えるようになった。						—	84
9 いじめなどの問題が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている。						63	72
10 教育相談体制が整備されており、児童は学級担任以外の教員とも相談できる。						56	52
11 児童が将来の進路や生き方について考える機会を多く設けている。						50	56
12 児童が生き生きと学ぶことができる学級づくりのために、学校全体で取り組んでいる。						81	56
13 学校行事について、児童にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。						94	84
14 児童会活動を自主的にできるよう、学校全体で支援している。						75	56
15 学校として、児童が達成感を得られるよう、クラブ活動の活性化について工夫している。						69	60
16 児童が意欲的に取り組めるよう、委員会活動の活性化について工夫している。						56	60
17 児童が生命の大切さや社会ルールを身につけるよう年間指導計画に基づき、道徳の時間を中心に道徳教育を継続的にしている。						50	60
18 人権尊重の教育において、参加・体験型の学習内容・方法を取り入れ、感性を高める指導を行っている。						75	60
19 環境・国際理解・福祉ボランティアなど、新しい教育課題を教育活動に積極的に取り入れている。						100	88
20 池田教育特区「英語」の時間を工夫して進めている。						—	92
21 職員会議をはじめ各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している。						88	80
22 事故・事件・災害等に対して、迅速かつ適切な対応ができるよう、役割分担が明確化されている。						88	92
23 この学校では、児童の生活の場として、ゆとりと潤いのある教育環境が整備されている。						69	80
24 施設・設備の拡充は、長期的見通しに立って計画されている。						63	64
25 施設・設備について、日常的に点検や管理が行われている。						94	80
26 各教科の備品や教材教具が十分に活用されている。						44	60
27 コンピュータ等の情報機器が、授業で活用されている。						81	64
28 教員の間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。						56	76
29 研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。						31	32
30 個人情報保護の観点から、児童の個人情報に関する管理システムが確立している。						75	72
31 教育活動に必要な情報を積極的に収集し、教職員や児童・保護者への周知に努めている。						94	84
32 保護者や地域の人々と接する機会を多く持っている。						88	80
33 教職員はPTA活動によく参加している。						68	68
34 近隣の小・中学校等との校種間連携の機会を設け、教育活動全般に生かしている。						94	88

は、肯定回答70%以上の項目。太数字は前回より20ポイント以上増えた項目。